

平成26年3月7日

各位

会社名 株式会社マネーパートナーズグループ
 代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全
 (コード番号：8732 東証第一部)
 問合せ先 取締役CFO 中西 典彦
 (TEL. 03-4540-3804)

平成26年2月次 月次概況（速報）のお知らせ

平成26年2月次の当社グループの月次概況（連結ベース）を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

記

年 月	平成 25 年											
	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
営業収益 (単位：百万円)	639	531	333	565	514	490	417	385	376	361	372	408
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	225,359	231,130	146,144	193,096	185,542	216,211	155,483	117,466	97,846	99,448	90,408	102,966
顧客口座数 (単位：口座)	210,010	212,103	213,850	216,178	218,537	220,361	222,432	224,281	225,986	227,731	229,204	230,717
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	42,139	40,774	39,321	41,940	42,801	42,327	42,886	43,202	43,229	43,755	44,179	43,797

年 月	平成 26 年											
	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
営業収益 (単位：百万円)	513	435										
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	141,934	116,780										
顧客口座数 (単位：口座)	232,518	234,192										
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	44,144	44,250										

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っておりません。
 2. 顧客口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
 3. 平成20年5月より代用有価証券の取扱いサービスを開始し、外国為替証拠金取引に使用できる代用有価証券の預り残高が発生しておりますが、現時点では外国為替取引預り証拠金の残高と比べ重要性が小さいため記載を省略しております。
 4. 平成20年6月から平成25年2月まで外国為替証拠金取引システムのホワイトラベル提供に伴う実績数値が発生しており、当該数値を以下のとおり取り扱っております。

- (1) 営業収益 : ホワイトラベル提供に伴うトレーディング収益を含めて表示しております。なお、当該収益の会計処理は、当社グループ会社をカウンターパーティとする外国為替取引に係るトレーディング収益を営業収益として全額計上した上で、当社グループ会社からホワイトラベル提供先に対して支払うべき外国為替取引に係る手数料を販売費・一般管理費に計上する方法によっております。なお、ホワイトラベル提供に伴うトレーディング収益と当社グループ顧客との外国為替証拠金取引に伴うトレーディング収益を区分することができないためこれらを区分しておりません。
- (2) 外国為替取引高 : ホワイトラベル提供に伴い発生する当社グループ会社をカバー取引先とする外国為替取引を含めて表示しております。なお、当該取引高は提供先の重要情報に該当するため区分して表示していません。
- (3) 顧客口座数 : ホワイトラベル提供に伴う口座数は含まれておりません。
- (4) 外国為替取引預り証拠金 : ホワイトラベル提供に伴い発生する当社グループ会社がカバー取引先として受け入れる預り証拠金を含めて表示しております。なお、当該金額は提供先の重要情報に該当するため区分して表示していません。

5. 平成21年7月より株式会社大阪証券取引所の開設する取引所外国為替証拠金取引（愛称「大証FX」）のマーケットメイカーとしての業務を開始しており、大証FXにおける取引高及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
6. 平成23年8月より差金決済取引（CFD）の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高（原取引単位を米ドルに換算）及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。

< 2月次の概況 >

2月の外国為替市場は、米ドル/円については、1ドル=102円台前半で取引が始まると、米国経済指標の大幅悪化やこれに伴う株価の下落を背景に100円台後半をつけました。その後、株価の反発とともに102円台前半まで戻すと、中旬以降は日米株価の動向や日銀による追加緩和策、更にはウクライナ情勢を背景とする新興国懸念等が交錯する中101円台前半から102円台後半にかけての極めて狭いレンジでの推移となり、101円台後半で月末を迎えました。米ドル/円の変動率は、平成24年10月以来の極めて低い水準となり、月間の値幅も2円程度の水準にとどまりました。また、米ドル/円以外の主要な取扱い通貨である欧州・オセアニア通貨についても、比較的高い変動率を維持した豪ドル/円を除き米ドル/円と同様に低い変動率となり、米ドル/円を含めた全体としての変動率は平成24年12月からのいわゆるアベノミクスが始まって以来最低の水準となりました。

このような状況の中、外国為替取引高は、上記のような相場状況や営業日数が前月と比べ少なかったこと等により、前月比約18%減少の1,167億通貨単位となりました。一方、営業収益は、相対的に取引高当たり収益性の低い米ドル/円の取引高割合が前月から更に増加したものの、全体の取引高当たり収益性を前月並みの水準に維持できたこと等により前月比約15%減少の435百万円となりました。また、顧客基盤については、外国為替相場の低迷等により伸び率が低下し、顧客口座数は前月比1,674口座増加の234,192口座、外国為替取引預り証拠金は前月比105百万円増加の44,250百万円となりました。

以 上